

9月13日(水) 本年度 第10回(通算 第2886回)  
「**基本的教育と識字率向上月間によせて**」

担当/国際奉仕委員会 12:30～ 釧路プリンスホテル

◆お客様と来訪ロータリアン

釧路短期大学専任講師 高木 真美 様

◆メーカーキャップ

家庭集会

- 1班 石森 将敬君、佐渡 正幸君、野口 英寿君、森山 義文君、水野 光輝君
- 2班 足立 功一君、長内 信辰君、篠原 恒也君、平澤 利秀君、松下 貴志君、宮下 洋介君
- 3班 小林 裕幸君、千田 清君、高橋 邦弘君、中島谷 友一朗君、安田 正二君、山岸 弘典君  
吉田 茂樹君
- 4班 伊勢 佳訓君、坂入 信行君、迫田 武君、佐久間 泰弘君、鈴木 圭介君、多田 洋平君  
田村 憲一郎君、村井 順一君、若林 新君
- 5班 天坂 雄一君、川村 真一君、佐々木 隆哉君、阪口 勇介君、富樫 孝之君、中島 仁実君  
中嶋 嘉昭君、平井 昌弘君、本間 明美君
- 6班 石井 東洋彦君、大澤 恵介君、大友 淳君、小山 義雄君、高橋 貢君、仁木 久司君
- 7班 伊賀 敬司君、小野寺 英夫君、萩原 昭博君、星 耕輔君、松田 有律香君、山本 大介君
- 8班 伊藤 尚嗣君、菊地美恵子君、北川 健二君、田野 竜之介君、濱屋 宏隆君、日比 龍雄君  
本間 弘人君

※以上参加者55名より26名を本日のメーカーキャップと致しました  
(残り29名は次回メーカーキャップとさせていただきます)

◆出席報告【会員総数78名 免除6名 出席計算に用いた会員数78名】

本日の出席率	出席者名 45名	メーカーキャップ 26名	出席率 91.0%
前々回の修正出席率	出席者名 38名	メーカーキャップ 10名	出席率 61.5%

◆ニコニコ献金

- ・高木真美様、今日は宜しく申し上げます ～森山 義文君、鈴木 圭介君、平澤 利秀君
- ・高木様ご来訪楽しみにしておりました ～石井 東洋彦君
- ・今日もよろしく申し上げます ～伊藤 尚嗣君
- ・バースデーケーキありがとうございました。出席出来ず、すみません ～工藤 健司君
- ・真美ちゃん頑張って ～迫田 武君
- ・先週、お花届きました。ありがとうございました ～中嶋 嘉昭君
- ・お久しぶりです。稚内から帰還しました ～仁木 久司君
- ・誕生日です。ありがとうございます ～吉田 茂樹君

## ◆会長挨拶 《森山会長》



会長挨拶いたします、今月9月は「基本的教育と識字率向上月間・ロータリーの友」月間になります。識字率はRCの支援活動などにより世界全体で向上しており、教育における男女間の格差も縮小してきていますが、今後も状況を改善していくにはさらなる我々ロータリアンの支援が必要となっています。

世界中でRCは「基本的教育と識字率向上」のために多くのいろいろなプロジェクトを実施しています、一例ですがいくつかの例をご紹介しますと思います。

- フィリピンのクラブでは 政府、自治体、海外のRCと協力し、台風被害を受けた市民センターの教室を再建しました。
- 東京府中 RC は子供たちの文章力と思考力を向上するために1974年から毎年市と協力して作文コンクールを開催しています。
- ボリビアのRCでは就労前の女子教育の重要性に対する認識を高めるために地域社会の家族を対象とした啓もう活動を行いました
- アメリカのRCでは識字プロジェクトの資金を集めるためにクラブメンバーが言葉力を競う大会に出場し、サポーターから寄付を集めました。このプロジェクトでは成人を対象とした識字力向上プログラムを実施しています。
- インドネシアでは教育省と周辺RCとRACの協力を得て地元高校生が数百名参加した識字率デーのイベントを実施しました。

このようにロータリーでは「基本的教育と識字率向上」の重要分野に該当する数多くの身近なプロジェクトが実施され、国連ミレニアム開発目標を力強くサポートしています。ちなみに識字率では日本は世界で23番目になっていました。23番目はほかに23か国あり、アメリカも同じ順位ですが北朝鮮も韓国も同じ順位となっています。

今日は釧路短期大学専任講師の高木真美様を迎えて講演していただきますので高木様どうぞよろしくお願いたします。

以上会長挨拶を終わります、どうも有難うございました。

## ◆幹事報告 《鈴木幹事》



1. 9月23日(土)の例会は、「野遊会」となっております。

10時に日赤病院前たかはし薬局駐車場で例会、終了後移動となります。

2. 第2回理事会の議事録を備えおきました。

3. 記念日プレゼントと例会出席予定表を回覧しております。

4. 厚岸ロータリークラブ様より会報と例会案内が届いておりますので回覧させていただきます。

5. 弟子屈ロータリークラブ様より創立60周年記念誌が届いておりますので回覧させていただきます。

## ◆委員会報告



### 《ロータリー研修委員会 高橋委員長》

皆さんこんにちは、ロータリー研修委員会から報告をさせていただきます。今回、第一回の家庭集会を皆さん無事終了して頂きました。報告書も揃いましたので、来週の例会には皆さんの手元にお届けできると思っております。また、その時にはテーマに沿ったお話をさせて頂きたいと思えます。どうぞ宜しくお願いします。

## ◆本日のプログラム「基本的教育と識字率向上月間によせて」



### 《国際奉仕委員会 平澤委員長》

本日は、基本的教育と識字率向上月間という事で、高木様に来ていただいて講演することになりました。高木様の経歴を簡単にご紹介させていただきます。1963年の釧路市生まれで、当会の畑田さんと同級生という事になっております。その後、1986年に同志社大学法学部を卒業されまして、同年から釧路市役所に勤務され、2000年から2008年まで市立釧路図書館の勤務を経て、2008年から2017年3月まで釧路市教育委員会生涯学習

課で図書館運営を担当し、新図書館整備に携わっております。

本年4月より釧路短期大学に専任講師として図書館情報関連講座を担当されております。高木様におかれましては一昨年も地域社会の発展と題して図書館について北ロータリークラブの例会で講演をいただいております。その際は教育委員会生涯学習課で図書館運営を担当されていたという事でございます。

本日は基本的教育と識字率向上月間によせての題に合わせまして、完成間近であります釧路図書館の話絡めましてお話を頂きたいと思えます。では早速ですが高木様宜しくお願い致します。



### 《釧路短期大学専任講師 高木 真美 様》

ただ今ご紹介に預かりました、釧路短期大学から参りました高木真美と申します。一昨年はちょっと立場が違いまして新しい北大通の10丁目に白い美しいビルが出来ました。この図書館についてお話をさせて頂きました。本日は識字率向上月間に因みまして「識字教育と図書館」という事で少しお話をさせて頂きます。識字率向上というと「日本はもう関係ないんじゃない、

自分たちにできる事はやっぱり発展途上国の識字率向上の為に尽力する事だよ」と思っている方が多いと思います。確かにそうなんです。世界の識字率、先ほどお話が有りましたが日本は23位と言われていますが統計の取り方によって違います。世界を視てみますとアフリカの識字率が大変低くなっております。それに比べまして日本の識字率は 大変高いということは事実であります。

皆さん9月8日は「国際識字デー」だをご存知でしたか？ 1965年にイランのテヘラン会議がありまして、そこでパーレビー国王が識字教育のために世界は軍事費の一日分を拠出すべきだと提案をされました。提案が現実になったかどうかはまた別の話なんですけど、そういった気持ちに応えまして、この日を「国際識字デー」という事になっております。きっとロータリーの識字率向上月間というのも、ここの所と関連しているものと思います。パーレビー国王といえば、結構わたし以上の方が分かっているかも知れませんが、亡命したりとかいろいろ大変だった方でございます。365分の1の全世界の軍事費一日分という事になると、大体2008年で換算しますと3,900億円と言われております。

次に識字率の低い国、皆さんがこれから支援しなきゃいけないと思っている国、こういった文字が見えない代表的な理由というのは5つあります。まず教育を受けることが出来ない。近くに学校がない、これは国によって首都と地方では全く違うという状況であります。あと女の子は学校に通う必要がないと考えられている。実は全世界の成人の6人に1人が、識字能力が無いというかたちで推測されておまして、そのまた3分の2が女子なんです。そしてまた学校と関連するんですが、先生の人数が足りない、あと現代の日本では考えにくいんですけども、アフリカ地域では細かく民族が分かれておりますから、家で話す言葉と学校で教わる言葉が違うところがあります。こんな事が原因かと考えられています。

江戸時代末期の識字率、これは凄く大胆な推測ではあるんですけども、男子の40~50%、女子の15%程度は読み書き能力を持っていたと考えられています。寺子屋の存在ですが、これは明治に入ってから日本の教育の歴史を調べたんですね。それによると江戸時代末期には15,560もの寺子屋の存在があったとあります。これは非常に大きいですね。この識字率の高さは皆さんご存知のように明治維新からの日本の躍進を支えたものとなっております。お触れ書きという言葉を知っていますか？ 時代劇とかでいうと、かわら版を配っていたりしていますが、これは字が読めるから出来る話なんです。今でもアフリカとかアジアの識字率の低いところでは、言葉でいろんなものを伝えられないので、政府の方針とか法律が決まったら、それを演劇仕立てにして村々を廻るということをしております。それはそれで一つの文化ですけども、文字によっていろいろな知識や情報を得ること、これは大変効率のいいことです。文字によって得られるものは沢山あります。過去から現代までの先人たちの知恵なども文字から学ぶのはとても効率的です。

第2次世界大戦後に日本人の読み書き能力調査というものが行われました。この結果が発表されたのは1951年なんです。1945年が終戦です。終戦に入ってGHQがやってきて日本人が字を読めなくて正しい情報を得られなかったという推測をしたんですね。尚且つ日本には漢字がありますが、漢字が難しいからわからないのではないかと、だからいっそローマ字表記にした方がいいんじゃないかという意見まで出ていまして、調査をすることになりました。全国で17,000人くらいを

無作為抽選して調査した結果、識字率2.1%という結果が出ました。これはアメリカの調査団も愕然としたそうです。決して日本人は文字を読めないからそうするのではなく、逆に漢字を無くす事によって文化を破壊することは止めようという事になりました。

その後、日本はどうなってきたのかというと、実はユネスコの統計調査というものがあります。ここに収められている識字率の項目がございます。1982年度版から1960年に亘り日本の識字率は2.2%だったというところで終わっており、ここからもう記載が無いんです。識字教育を改めて行わないといけないという考え方です。勿論それはみんな6歳になったら学校教育、全ての人が義務教育を受けます。その中で読み書き能力を蓄えていく訳なんです。ここで新たにいろんな問題が分かってきました。何とか読んだり書いたり、自分の名前を書けるんだけど、読み書きは困難だという子供たち、大人も含めてそういう人達が居るという事が分かってきました。ディスレクシアという言葉聞いたことはありますか？ 普段みなさん発達障害という言葉聞きませんか？ あと発達障害の中に自閉症スペクトラムとかADHD(注意欠如多動性障害)とかアスペルガー(広汎性発達障害)とかいろいろ聞きますよね？ その中の一つに学習障害というものがあります。学習障害にはいろんな形があるんですけども、学習障害の8割くらいは読み書きに困難があるという事なんですけど、ディスレクシアというのは知的に問題が無いんです。だけど読み書きの能力に著しい困難を持っている症状をいいます。十分に学校に行かせてもらって、いろんな教育も受ける機会があって、耳も目も口もちゃんと正常なんです。異常が無いにも関わらず、読み書きに困難を覚える。一般的な特徴として日本では重度の人から凄く軽い人まで推計5~8%くらいの人居ると言われています。

アメリカのトムクルーズという俳優をご存知と思いますが、このディスレクシアという言葉が世界に広がったのは、トムクルーズが自分は失読症だ、読めないんだ、書けないんだと自分で言ったんですね。彼は母親やアシスタントに台本を読んでもらい耳から言葉を覚えたんですね。その後は、エージェントが全部契約書を読んで彼に確認をしてから契約をしたと言われていています。彼はいろんな形で訓練を受けて現在を克服しています。あとキアヌ・リーブスもそうなんです。読み書きに困難がでてきたという事なんです。ディスというのギリシャ語で困難という意味で、どうやら脳機能の偏りによるものだと考えられています。ディスレクシアの人達はどう感じているのかなとみんな想像がつかないと思うんですが文字が揺らいで見えるんです。あと滲んで見えたり霞んで見えたり鏡文字に見えたりと結構大変なんです。ディスレクシアの重度の人になると文字が浮いたり踊ったり突き刺さったりして見えるという状況なんです。でも何となく自分なりの方策で大人になってしまう人が多いです。ですので辛い思いをさせない為にいろんな解決方法があります。文字のポイントを大きくし過ぎないとか、漢字を一文字ずつ見せるとか4文字熟語だと気が散らないようにその部分だけ見せていくとか、音声で聞かせていくとかがありますけれども、一人ひとりの症状が違うので、学校教育機関でしたら特別支援の皆さんに、丁寧で継続的なケアを受けることで学齢期間に克服することも可能だと言われていています。

ユネスコ、これは国連の専門機関なんですが、教育とか科学とか文化の協力と交流などを司っております。創設したのはユネスコ憲章採択が昭和20年です。日本は昭和26年、1951年7月

2日に加盟しております。日本ユネスコ国内委員会、これは文科省の所管でございます。この中で実はユネスコ公共図書館宣言というものがあるんです。この宣言は、公共図書館が教育、文化、情報の活力であり、男女の心の中に平和と精神的な幸福を育成するための必須の機関である、というユネスコの信念を表明するものである。ユネスコは国及び地方の政府が公共図書館の発展を支援し、かつ積極的に関与する事を奨励するとしています。この中で明らかに言っているんです。ユネスコ公共図書館の宣言の中で、幾つかの項目があるんですが、公共図書館の使命というところで情報、識字、教育及び文化に関連した以下の基本的使命を公共図書館サービスの核にしなければならない。その中の一つにあらゆる年齢層の人々のための識字活動とその計画を援助し、かつ、それに参加し必要があればこうした活動を発足させるとあります。ただ、この宣言は1949年が最初ですけどもディスレクシアに関して、そこまで考えていたのかどうかはこの段階では分かりません。

困難を抱えたまま大人になる人は、何とか自分なりの方法を編み出して読み書きをするけど、苦痛なんだという人は結構います。図書館は本を立てて飾る所というわけではありません。もっと沢山の事を行います。図書館は知る権利、学ぶ権利を保証する所です。識字教育の現代の対象というのは夜間塾だとかがありますよね？その中で義務教育を修了できなかった人やお年寄り等が多いですね。あと海外から日本にやって来て働いている外国の人たち、これは組立の工場で労働者を沢山必要とするような地域、そういう外国からの労働者を必要とする地域です。あと、聞きなれないと思いますが形式卒業者という言葉なんですが、十分な学力を身に着けることが出来ずに学校教育を終えた人たちが形式卒業者と言われていています。文科省の考え方で、この形式卒業者の中に知的問題が無いにも関わらず、読み書きが困難なために、いろんな形で評価されない、わかっているけどそれをテストで示す機会が無い。これは仮説ですが今釧路地域も学力が低いと言われていています。もしかしたら5%~8%のディスレクシアの人が居るとしたら、その子供が読み書きの能力が上がれば、きちんとテストに対応して理解を示すことが出来る可能性があります。これはあくまでも仮説に過ぎませんが、どこかの段階で文科省がいろんな法則を立ててくると思います。現段階で文科省の考え方としては、学力の低下対策に図書館を活用しようと考えております。無料で本を見る図書館利用を促進して読書する力をつけていけばいいじゃないか。子供の読書活動を推進して、そのうえディスレクシアに限って言えば、もちろん克服してちゃんと社会で活動する人も居るんだけど、テストで点数を出せないために自分は駄目なんだと言って不登校になって、引きこもりになっていくという人達が少なからず居ます。これは2次障害なんです。そういう人達は高校に行ったとしても中退する方が多いんです。でもこういう人達も知る権利、学ぶ権利を保証する図書館、この場を活用して高校資格取得の援助をしたらどうかと文科省が考えたんです。これは今年度からの考え方ですので、来年以降、何をどう選んでどうするかというのが見えてくると思います。

2次障害が一番怖いディスレクシア、読み書きが困難だけどその子は知的には何の問題もない、案外コミュニケーション能力が高かったりする、そういう人達の力をその地域にその国にきちんと繁栄されていくために、私達に何が出来るのかを考えなければなりません。今この街は新しい図書館をもちます。3,000㎡の高台にある図書館では出来なかったことが、今度の新しい図書館なら5,390㎡もありますから、やろうと思えば出来ます。これは図書館のあり方として、どういう事をするのか

という市民の意識と考えが大切です。 図書館を無料の貸本屋のままにしておくのか、それとも街の底力を育んでいく施設にするのか、皆さん一人ひとりの考え方や行動にかかっております。

本日は皆さんに知的に問題が無くても読み書きに困難をきたしているという人が居るという事、その人達が困難を克服して社会に参加すれば力になる。 そのために図書館は支援が出来る場所であること、これを知って頂ければ有り難いと思います。 ご清聴ありがとうございました。

### 謝辞 <森山会長>

高木様、本日はご講演ありがとうございました。 釧路なんかもそうなんですけれども、最近学校が足りないどころか、逆に学校を減らしていくという現実がありますが、正に我々も学び直しを常に頭の中に自覚しまして、これから生きて行きたいなという気持ちがありました。 更に驚いたことにディスレクシアとか9月8日の国際識字デーを仁木会員が分かっている北クラブの人材の素晴らしさを自覚したところです。 本日はどうもありがとうございました。

